

〔編集後記〕

◇ 46巻1号をおとどけします。これから46巻が始まるわけですが、45巻の“試み”を経て、ここにはいくつかの新しい企画が盛り込まれることになりました。

◇ 総説、講座、展望等は会員の推せんまたは希望をアンケート形式で採り、多数の中から編集会議によって選ばれた方々にお願いし、本誌をかざっていただくことになりました。田宮先生の講座、松本先生の展望は、そのようにして書いていただいたものです。

◇ また学内でいくつか持たれている研究会やセミナーの内容を載せて欲しいというご希望もあって、本号には免疫病理に関するものを多田先生にまとめていただきました。さらに新しい連載ものとして、診療のための検査についてのポイントを中検の降矢先生、小林先生にお願いしました。従来の“あたらしい薬”とともに毎号つづけてご覧下さい。

◇ 香月先生の巻頭は、依頼の時点がかなり以前で、学長事務取扱として困難な大学の情勢の中であって書かれたものであることを考えるとき、“考えること”“笑いをもつこと”そして新しいものの創造につながる個性の独立を希望される点、まことに打たれるものがあります。これも同じく極めて多忙な中から執筆された井上先生の総説とともに味わって読んでいただきたいと思います。

◇ もう一つ46巻から変更した試みは、従来本文とは別にして巻末にのせていた欧文抄録を、Summaryとして考按の次につづけて収録することにしたことです。この方法にすることについて編集会議でもかなりの論議がありました。一つのスタイルを造ること、一つのスタイルを変えることには常に不安がつきまといまいます。46巻もまたこの意味で“試みのシリーズ”であるようです。本誌の企画について、体裁について、内容についてご意見をお寄せ下さるようお願いいたします。

◇ 千葉医学会がいわゆる総会と学術大会とを別にしたのは今年が初めてです。これについては総務幹事の米沢先生や、集会幹事の桑田先生のお骨折りがありました。千葉医学会それ自体もこのようにして体質を徐々に変えつつあります。本誌の前付にはその結果として行なわれる秋の学術大会のプログラムと抄録が載せられています。今年の大会には一般演題がなく、特別講演、CPCのみになっています。これも幹事会の論議や会員からのアンケートによって出来上がったものです。なお当日12:00~12:50には大会運営懇談会がありますが、ここにもどしどしご意見がいただきたいとのことです。編集後記のスペースを借りてお知らせ申し上げます。

(萩原弥四郎)